



今こそ「ONE TEAM」となり、JR産業に集うすべての仲間の雇用と生活を守ろう

2021年 3月19日

日本鉄道労働組合連合会

JR北労組 第3～5回団体交渉

ベア実施・諸手当改善を力強く訴える！

会社は定期昇給の実施を明言するも、ベア実施は困難との考えを示す！

JR北労組は、3月10日に2021春季生活闘争の第3回団体交渉を行い、申2号「2021年度賃金引き上げなど、労働条件の改善に関する申し入れ」のうち、「1職場10要求」の取り組みで寄せられた組合員からの切実な職場環境改善要求について協議し、会社に対して最大限の改善を求めてきたところであるが、同18日には、第4回・第5回団体交渉を断続的に行い、ベースアップの実施や諸手当改善をはじめ、要求全般について広範にわたり協議した。

13時45分から行った第4回団体交渉でJR北労組は、新型コロナウイルス感染症の影響で人の移動が制限されたことにより、会社を取り巻く経営環境がより一層深刻さを増していることに理解を示しつつも、そうした中であっても、組合員が現場最前線で社業を支え続けていることも事実であると主張し、会社の考えを質した。

これに対して会社は、「経営状況等を総合的に勘案した結果、定期昇給のみを実施する」と答え、ベースアップの実施は困難との考えを示したことから、JR北労組は、厳しい経営環境下での定期昇給の実施は評価しつつも、この間の組合員の労苦と、先の衆議院国土交通委員会でのJR北海道の賃金水準に関する国土交通大臣の答弁を踏まえれば、離職を防止するためにはベースアップの実施が効果的であり、併せて、諸手当を含めた賃金全般の改善が不可欠であることを訴え、会社に対して再考を求めた。

その後一旦中断し、18時45分から再開された第5回団体交渉では、改めて会社から現時点の考えが示されたものの、第4回団体交渉からの前進はなかったことから、JR北労組は最終回答に向けて強く再考を求めた。

JR北労組は、厳しい経営状況は理解しつつも、この間の経営支援策の継続・拡充に向けた取り組みの成果を基礎に、最大の経営課題でもある離職防止に向けた処遇改善の必要性とコロナ禍における組合員の奮闘を最後の最後まで粘り強く訴え、要求実現に取り組むこととしている。